



➡ 三井住友銀行（SMBC）本店での研修

G10 派遣生徒 12 名、NZ 派遣生徒 8 名が、9 月 26 日に三井住友銀行本店を訪問し、本社ビル 11 階の会議室で講演をいただいた。広々とした近代的な空間での講演は、快適さも感じる一方で独特な緊張感もあった。

最初にお話をいただいたのは、本校の卒業生であり、経済界のみならず各界で重要な役割を担われている北山禎介特別顧問から大変貴重なお話をいただいた。言うまでもなく、北山氏は本校同窓会「如蘭会」の副会長であり、入学式では祝辞をいただいている方である。現在は中央教育審議会の会長も務められ、まさに日本の教育の未来を切り拓いていらっしゃる方である。本校の海外研修の内容が、氏の支援によって支えられている部分は非常に大きい。11 月の G10 成果報告会でも御臨席を賜り、大変勇気づけられるコメントを英語でいただいた。

氏の母校での思い出をとおして、高校時代がいかに貴重な人生経験であったかをお話いただいた。今でも高校時代の友人と会う機会が多くあるというお話もいただいた。偉大な先輩のお話から大きな励みをいただくことができた。

北山氏のお話の後に、3 人の社員の方から、それぞれの部署の業務内容や、それに関する専門的な知識について教えていただいた。すべてが興味深く、金融界の最先端を感じるものであった。

特に、IT イノベーションに関わる業務に従事されている桑原敦史氏の講演は、これまでの「金融」という概念が変わるものであった。桑原氏も本校出身であり、水泳部に在籍されていたとのことである。ここでも先輩が活躍する姿に大変な感銘を受けた。氏の業務は「IT の技術を活用して新しい事業を創出する」ということが根底にあるとのことである。「今、日本が目指している世界」というテーマを軸にお話いただいた。まずは日本が国家としてイノベーションの進展を後押ししている具体例として※ Society5.0 や未来投資戦略 2018、銀行法の改正について述べられた。

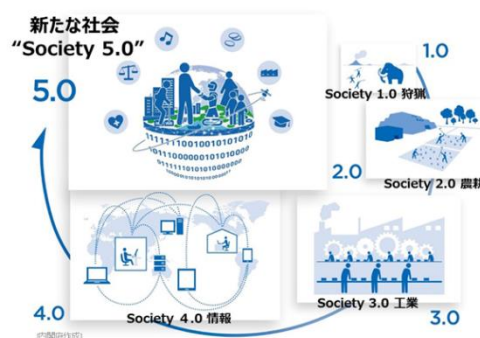
次に FinTech についてである。FinTech とは、「IT」を駆使して提供される「利便性」「効率性」を備えた新たな金融サービスのことだそうである。これの登場により、金融界が他業種と融合し、協働する動きが加速しているそうだ。FinTech 企業は金融機関を代替したり多くの顧客を奪うには至っておらず日本ではある意味で補完関係にあることもお話いただいた。スマートフォン決済などがその好例と考えられるが、キャッシュレス化はますます進んでいくであろう。

最後に SMBC グループの取組として、ビッグデータを活用した独自の AI モデルの構築や生体認証技術を活用したサービスを提供する子会社設立事例を紹介された。

こういった日本が目指している社会を展望しつつ日々イノベーションを生み出しながら仕事をされているお話はとても刺激的なものであった。

※ Society5.0 はサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のことで、第 5 期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたものである。例えば、各自動車からのセンサー情報、天気、といったリアルタイムの情報や過去の履歴などのデータベースといった様々な情報を含むビッグデータを AI で解析し、「好みに合わせた観光ルートの提供や混雑を考慮した最適な計画が提案され、旅行や観光がしやすくなること」などが例として挙げられる。

（参考：内閣府 HP https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html）



➤ 東京大学情報学環オープンスタジオのアーカイブに掲載！

Global Journal 18号で報告しましたが、10月21日（日）13時より、東京大学本郷キャンパス情報学環オープンスタジオにて、G10派遣者大学生によるワークショップ「大学生とのディスカッション～G10 海外派遣研修における提言プレゼンテーションをより良いものとするために～」が行われました。そしてそのイベントの様子が、東京大学情報学部オープンスタジオのアーカイブに掲載されました。

(<https://openstudio-utokyo.com/archive/20181021-825/>)

平成29年卒業生で、第1回ボストン・ニューヨーク海外派遣研修生の一員であり、本校グローバル委員会の創設メンバーの一人であり、同委員会初代委員長でもある現東京大学2年生に在籍する卒業生が中心となって、ボストン・ニューヨーク研修に派遣された日比谷高校出身の大学生たちによって開催されたものです。

日比谷出身の大学生との交流により卒業後のイメージが具体的に見えた生徒もいると思います。今後こういった機会が継続していくとよいと思います。

➤ 英語の外部コンテストで日比谷生が活躍しています！

① 第55回東京都高等学校英語教育研究会主催 スピーチコンテスト 準優勝！

東京都高等学校英語教育研究会が主催する伝統あるスピーチコンテストで、準優勝を勝ち取りました！堂々としたスピーチで、社会的なテーマについて論じました。また、他の生徒も入賞こそ逃したものの、その活躍が認められ、東京都教育委員会主催の「平成30年度言葉の祭典」に出場しました。日々の努力の賜物です。

(スピーチ・タイトル)

“The Garbage in the Sea”

“What Is Normal?”

② 第57回全国英語教育団体連合会(全英連)主催 全国高等学校生徒英作文コンテスト 入賞！

全国英語教育団体連合会(全英連)が主催する権威ある英作文コンテストで、入賞しました。”A Local Place I Want Tourists to Visit”というトピックで、見事1年の部で入賞しました。

③ 第4回 文部科学省後援 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会に出場！

12月22日(土)、23日(日)、東京大学生産技術研究所(駒場)において、第4回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会が開催されます。全国の錚々たる学校からディベートに自信ありの生徒たちが集まります。昨年は1、2年生混合チームで出場し検討しました。今年は2年生のチームで、昨年以上の成果を目指しています。2年生は授業でもディベートに取り組んでいますので、当日の活躍が期待されます。代表者の検討を期待しましょう！



※ 英語授業の風景から

1年生はプレゼンテーション活動、2年生はディベート活動を中心に、英語運用力の伸長を図っています。今年の1年生も全クラスで一斉懸命プレゼンテーション活動に取り組んでいます。各レッスンのトピックに関連する事項を自分たちなりに調べ、パワーポイントを活用して英語で発表を行っています。中には専門的な内容や、あまり知られていない事実や情報についても発表する生徒がいます。英語を運用する力は、英文法などの知識をただ積み上げていくものではありません。また、定型フレーズを繰り返すだけの運用も、真の運用力にはなかなかつながっていきません。文化的、社会的なさまざまな背景知識を吸収していくことが重要になります。自分の意見や考えを伝え、共有し、さらにそれについて議論する、という今の活動は、日比谷生の運用力の大きな礎になるはずです。